

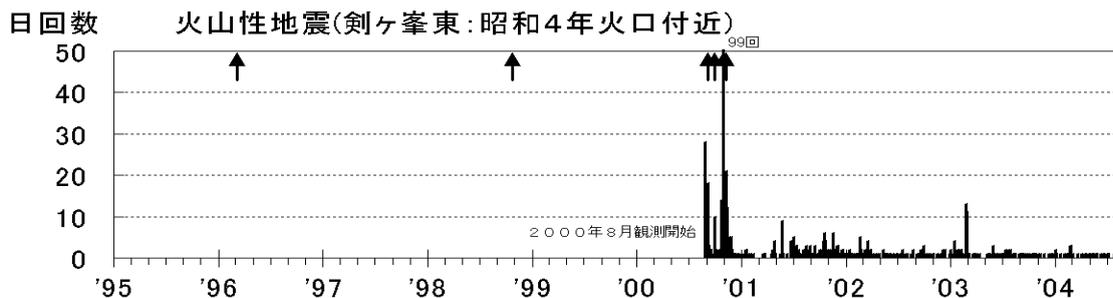
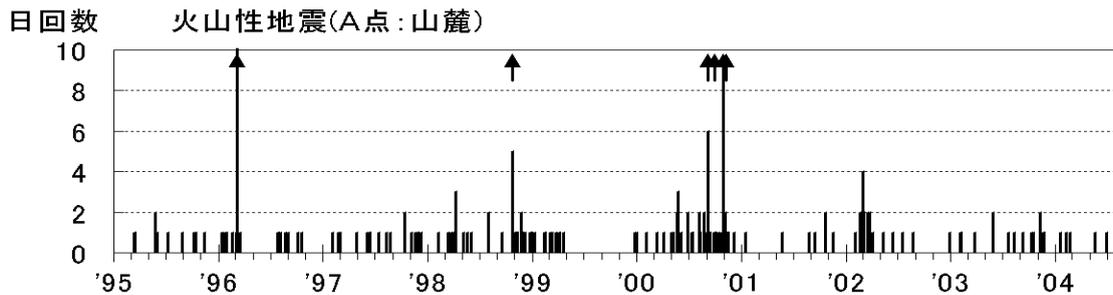
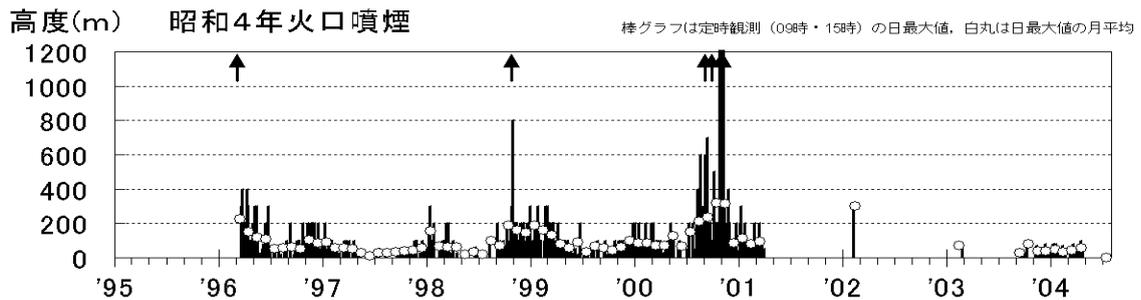
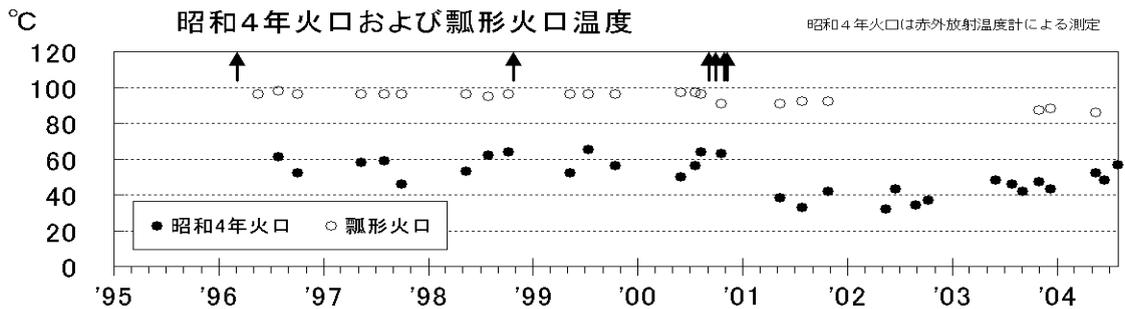
北海道駒ヶ岳

1 概況

火山活動に特別な変化はなく、静穏な状態が続いています。

地殻変動はわずかながら山体膨張の傾向が続いています。昭和 4 年火口ではこれまで同様弱い噴気が見られています。火山性地震は少ない状態が続いています。

北海道駒ヶ岳では 1996 年から 2000 年までの間に 6 回の小噴火が発生しており、噴火発生の数年前に小噴火を繰り返した 1929 年大噴火や 1942 年中噴火の前の状況と類似しています。



最近の火山活動経過図(1995年1月1日~2004年7月31日) 印は噴火

2 噴煙の状況

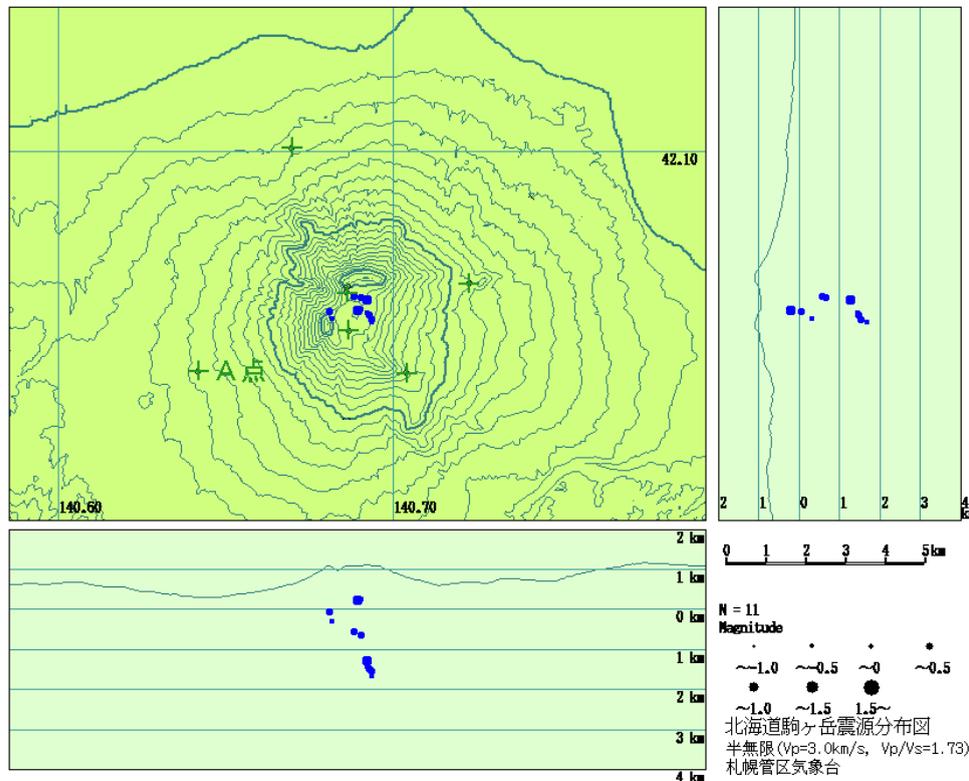
2003年9月以降,昭和4年火口および96年南火口列からの弱い噴気がしばしば観測されていますが,今期間も一時的に観測される日がありました。

3 地震の発生状況

今期間, A点で観測された火山性地震はなく,山頂観測点で観測されるごく微小な地震も少ない状況でした。2001年以降,地震活動は静穏に経過しています。火山性微動は2001年1月以降観測されていません。

地震・微動の月回数(A点)

2003~2004年	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
地震回数	1	1	2	4	0	1	2	0	0	1	1	0
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



北海道駒ヶ岳の震源分布図(丸印:震源 +印:地震観測点)

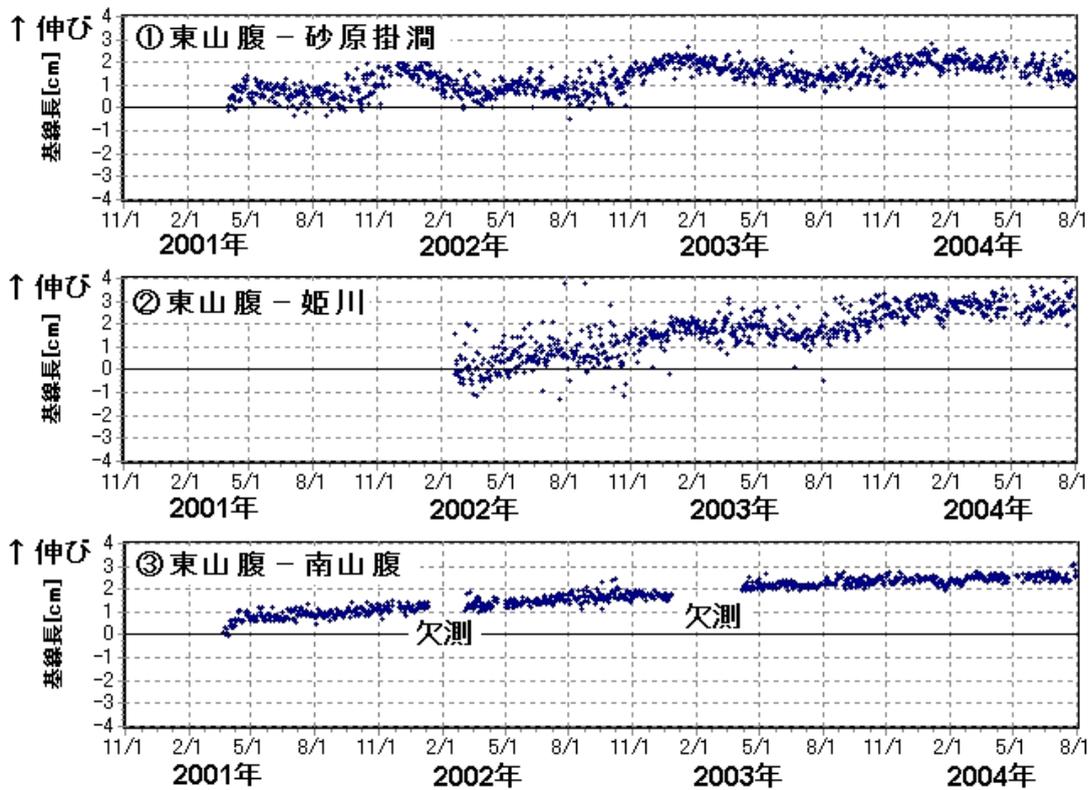
今期間(2004年7月1日~7月31日)に求まった震源はありませんでした。

青丸は前期間までの11か月間(2003年8月1日~2004年6月30日)に求まった震源を示しています。

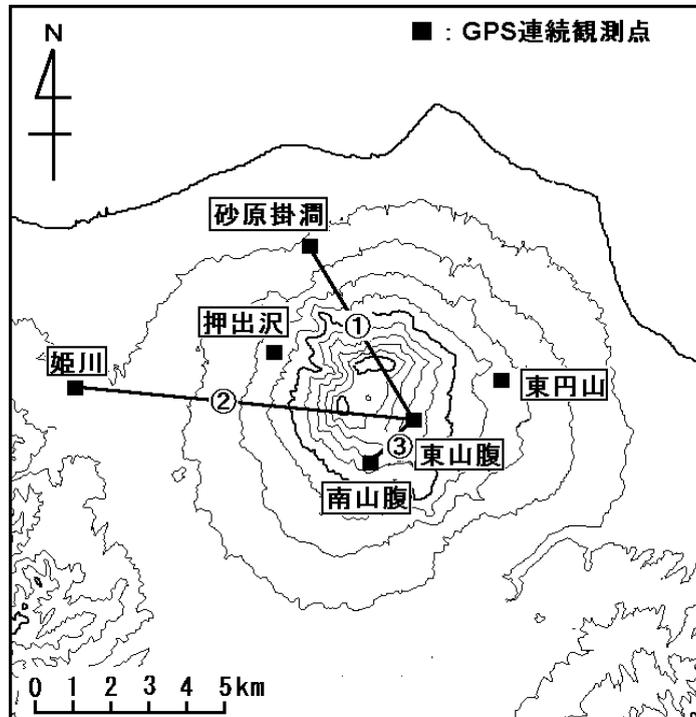
過去の震源分布は大きく分けて山頂火口原直下の海拔付近と海拔下1~2kmに集中しています。このほか、山麓のやや深いところ(5~10km)を震源とする地震も時折発生していますが、十分な精度が得られないためこの図には表示していません。

4 地殻変動の状況

GPS連続観測では、季節変動の影響も見られますが、わずかな山体膨張を示す基線長の伸びの傾向が引き続き認められています。



基線長変化(2001年3月23日~2004年7月31日)



5 調査観測の結果

7月28～30日に調査観測を実施しました。昭和4年火口の熱活動には大きな変化は見られませんでした。96年南火口列では噴気活動がやや弱まっていました。

【昭和4年火口】

火口内の南側火口壁で弱い噴気活動が続いています。赤外放射温度計*で測定(測定距離約130m)した火口温度の最高は約57で、前回(2004年5月:約52)と比べて大きな変化はありません。

火口温度は2000年噴火以降、2001年に一旦低下しましたが、その後緩やかな上昇傾向を示しています。

赤外熱映像装置*の観測では、南側火口壁の噴気以外に高温域は認められませんでした。

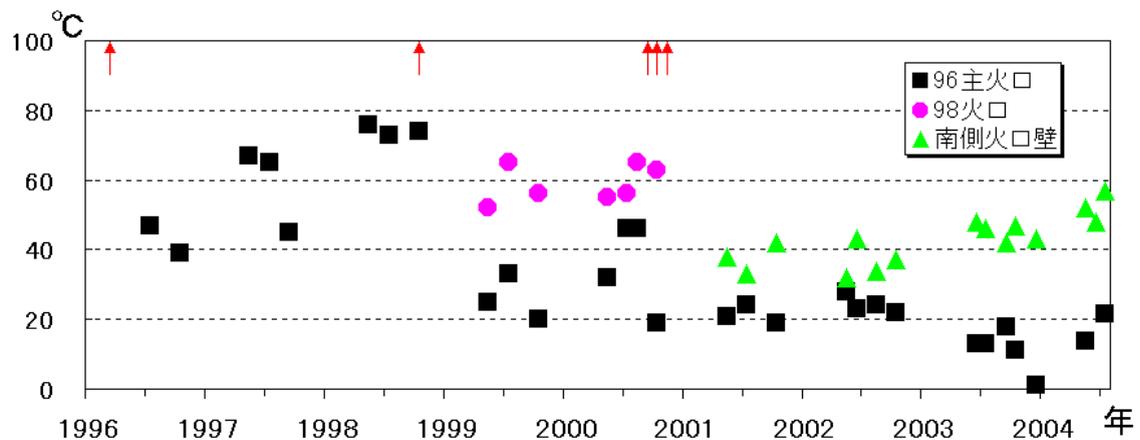
【96年南火口列】

火口列の所々で弱い噴気活動が続いています。火口列南端に位置する最も活発であった噴気孔(F13)では弱い硫化水素臭が引き続き認められますが、噴気音は弱まっていました。

赤外放射温度計*で測定(測定距離3m)した噴気孔の温度は約62と前回(2004年5月:約94)と比べて約30低く、噴気活動は低下している様子が認められました。



駒ヶ岳山頂火口周辺図

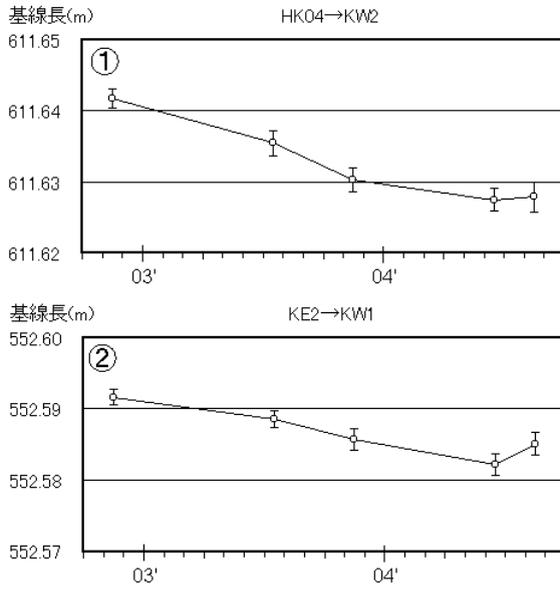


赤外放射温度計による昭和4年火口における各領域の最高温度 : 噴火
放射率は2002年まで0.9、2003年から1.0で測定

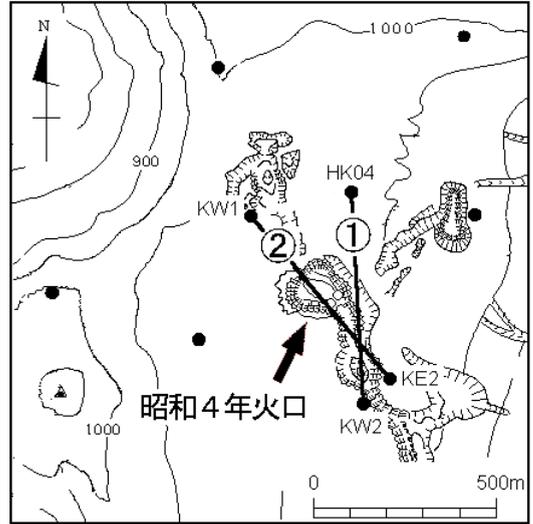
* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

【GPS 繰り返し観測】

GPS 繰り返し観測では、昭和4年火口を囲む基線でわずかな収縮がこれまで続いていましたが、今回の観測ではその収縮が鈍化する傾向が認められました。



昭和4年火口周辺の基線長変化



山頂GPS繰り返し観測点位置